

CASBEE-新築(簡易版)2010年版

精華中学校

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010

■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.8)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.3</b>	<b>0.15</b>					<b>2.3</b>
<b>1.1 騒音</b>		<b>3.0</b>	<b>0.40</b>					
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-			
2 設備騒音対策								
<b>1.2 遮音</b>		<b>2.4</b>	<b>0.40</b>					
1 開口部遮音性能		1.0	0.30	3.0	-			
2 界壁遮音性能		3.0	0.30	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.20	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.20	3.0	-			
<b>1.3 吸音</b>		<b>1.0</b>	<b>0.20</b>					
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	<b>0.35</b>					<b>2.6</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>3.0</b>	<b>0.50</b>					
1 室温		3.0	0.60	3.0	-			
2 負荷変動・過渡制御性								
3 外皮性能		3.0	0.40	3.0	-			
4 ゾーン別制御性								
5 湿度・湿度制御								
6 個別制御								
7 時間外空調に対する配慮								
8 監視システム								
<b>2.2 湿度制御</b>		<b>1.0</b>	<b>0.20</b>					
<b>2.3 空調方式</b>		<b>3.0</b>	<b>0.30</b>					
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.4</b>	<b>0.25</b>					<b>3.4</b>
<b>3.1 屋光利用</b>		<b>4.6</b>	<b>0.30</b>					
1 屋光率	別紙	5.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口								
3 屋光利用設備	光庭を設置	4.0	0.40	3.0	-			
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>3.0</b>	<b>0.30</b>					
1 照明器具のグレア								
2 屋光制御		3.0	1.00	3.0	-			
3 映り込み対策								
<b>3.3 照度</b>		<b>3.0</b>	<b>0.15</b>					
<b>3.4 照明制御</b>		<b>3.0</b>	<b>0.25</b>					
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.1</b>	<b>0.25</b>					<b>3.1</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>4.0</b>	<b>0.50</b>					
1 化学汚染物質	☆☆☆☆材料を使用	4.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策								
3 ダイオキシン等								
4 レンガ対策								
<b>4.2 換気</b>		<b>3.0</b>	<b>0.30</b>					
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-			
4 換気設備								
<b>4.3 運用管理</b>		<b>1.0</b>	<b>0.20</b>					
1 CO <sub>2</sub> の監視		1.0	0.50					
2 喫煙の制御		1.0	0.50					
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>					<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.4</b>	<b>0.40</b>					<b>3.4</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>4.0</b>	<b>0.40</b>					
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-			
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準の最低限を満たす	4.0	1.00	3.0	-			
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>3.0</b>	<b>0.30</b>					
1 広さ感・景観	教室天井高さ 3000	5.0	0.50	3.0	-			
2 リフレッシュスペース		3.0	-					
3 内装計画		1.0	0.50					
<b>1.3 維持管理</b>		<b>3.0</b>	<b>0.30</b>					
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50					
3 衛生管理業務								
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.0</b>	<b>0.31</b>					<b>3.0</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	<b>0.48</b>					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.0</b>	<b>0.33</b>					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23					

2.4 信頼性			3.2	0.19			
1	空調・換気設備		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備	節水型器具を設置、マンホールトイレを設置	4.0	0.20			
3	電気設備		3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5	通信・情報設備		3.0	0.20			
3 対応性・更新性			3.1	0.29			3.1
3.1 空間のゆとり			4.0	0.31			
1	階高のゆとり	階高3700	4.0	0.60	3.0		
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 1.8	4.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性			2.6	0.38			
1	空調配管の更新性		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性		1.0	0.17			
3	電気配線の更新性		3.0	0.11			
4	通信配線の更新性		3.0	0.11			
5	設備機器の更新性		3.0	0.22			
6	バックアップスペース		3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30			2.5
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30			3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		建物外周に庇を設置、建物のコアに光庭、テラスを設置、防犯カメラ	4.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性			-				3.5
LR1 エネルギー			-	0.40			3.9
1 建物の熱負荷抑制		外壁面(ウレタン吹付け)、屋根面(木毛セメント板)の断熱材の使用	4.1	0.30			4.1
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用			2.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用		太陽光発電設備の設置	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化		高効率照明器具の使用	5.0	0.30			5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=69.4%	5.0				
集合住宅の評価							
4 効率的運用			3.0	0.20			3.0
4.1 モニタリング			3.0	0.50			
4.2 運用管理体制			3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30			3.1
1 水資源保護			3.0	0.15			3.0
1.1 節水			3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.63			3.1
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		再生骨材の路盤 舗装下、建物下	3.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		乾式仕上げを多用する	4.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68			
1 消火剤			-	-			
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50			
3 冷媒			3.0	0.50			
LR3 敷地外環境			-	0.30			3.6
1 地球温暖化への配慮		RC壁を減らし間仕切り変更への対応、将来エアコンのスリーブ対	4.9	0.33			4.9
2 地域環境への配慮			3.1	0.33			3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25			
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25			
3 交通負荷抑制		敷地周囲に通風スペースを確保、室外機は屋上へ設置	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制		透水性舗装を設置、雨水の抑制に務める	4.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			2.8	0.33			2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-			
1 騒音			-	-			
2 振動			-	-			
3 悪臭			-	-			
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制			2.8	0.67			
1 風害の抑制			3.0	0.60			
2 砂塵の抑制			2.0	0.20			
3 日照阻害の抑制			3.0	0.20			
3.3 光害の抑制			3.0	0.33			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70			
2 壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30			